

未来 ひだか

みらくる

2009年 8月

日高農業改良普及センター

女性の役割発揮で日高の軽種馬農業を元気にしよう！ ～パートナーシップでつくる農村活動支援事業(日高全域)～

平成20年度より、女性農業者による軽種馬産業の振興、日高地域の活性化、女性の役割発揮・地位向上を目標に、女性農業者が「軽種馬経営の学習」「社会へ発信する活動」に関する活動を始めました。女性たちのエネルギーで馬産地日高が盛り上がるのが期待され、その活動は注目されています！

活動のはじまり！

【検討会(8・9月)】 日高支庁管内全7町より 22名



- ・軽種馬女性農業者の学習の場は？
 - ・仕事への自信や参画の状況は？
 - ・これからの軽種馬産業のためには？
- ...etc、etc...

学習&PR
活動に取り
組んで行こ
う！

- ・アンケートの実施！

H20年度の取組！

門別競馬場視察研修を経て、「どうする!? 日高の軽種馬!? ~軽種馬&競馬を盛り上げよう!」をテーマにワークショップで意見を出し合いました。

まとめた意見は軽種馬振興公社理事長(日高町長)へ「意見書」として提出しました。



門別競馬場視察研修



ワークショップ

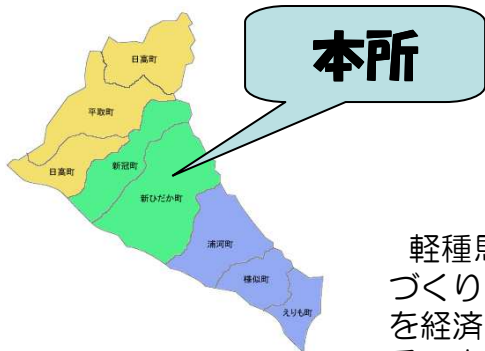
経営に関する研修会、生産技術に関する研修会と、多彩な研修会が開催され、一年間で延べ125名が参加しました。



「女性の役割と牧場経営のこれから」をテーマに意見交換



生産技術研修会



繁殖牝馬の収支点検による 低資質馬の淘汰への活用

～浦河町～

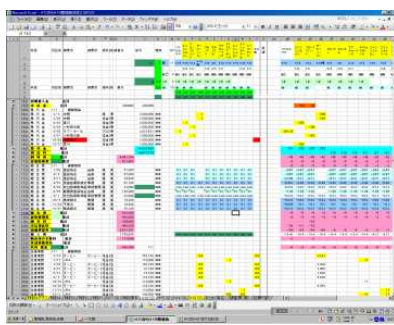
軽種馬の経営改善には、低資質牝馬の淘汰による強い経営づくりが重要です。そこで、繁殖牝馬毎の経営への貢献度を経済的に評価する方法を考案し農業者と実践しています。その中で、分析精度を保ちながら簡易に集計できる計算方式を見だし、実証と波及を図っています。

収支点検の作業

①市販簿記ソフトの
総勘定元帳データ



②データを表集計ソフト
に変換し牝馬毎に収
入や経費配分をする



③毎年の収支グラフを、
牝馬毎に作成し検討する



土壌消毒の実施による花き高位品質の向上

～新ひだか町三石地区～

新ひだか町三石地区のデルフィニウムは平成元年から栽培が始まり、年間の生産量は540万本と全道有数の産地です。

しかし、近年は連作等による生育障害のため秀品率の低下が著しくなっています。

その対策として農業改良普及センターは、関係機関と連携し、土壌還元消毒やダゾメット粉粒剤による土壌消毒の実施を支援しました。その結果、生育障害が減少しました。

今年度は、三石久遠地区では西村選択培地F0ーG1培地を用いて土壌消毒効果の持続性を調査し、土壌消毒効果の安定化を図り、デルフィニウムの高品質安定生産を推進していきたいと考えています。



土壌消毒に関する現地研修会の様子

土壌消毒により生育が良好なデルフィニウム



西部支所



地産地消の更なる発展を

～日高町日高～

日高町日高地区では各機関が協力し、農産物直売所を起点とした地域再生に向け、女性の力で人のづくりの支援を進めています。

農業改良普及センターは、さつまいも、ハロウィンカボチャが特産品として定着し、農産物直売を通じて日高の山、溪流、温泉などの観光資源と結びついた新たなマンパワー再生の種になるように支援しています。

昨年は地域おこしとしてハロウィンカボチャを利用した子供達との食育イベント、さつまいも特産品づくりへの試みを行いました。

今年はさつまいも栽培の可能性を高めるため、昨年度評判の良かった品種「クイックスイート」の栽培試験を行っています。



関係機関協力による小学生のハロウィンカボチャづくり



さつまいも試験栽培と試食

環境に優しい土壌消毒でV字回復

～平取町～

平取町トマト・胡瓜部会では、平成13年度頃から褐色根腐病などの土壌病害が一部のほ場で発生し、収量の低下が問題となっていました。

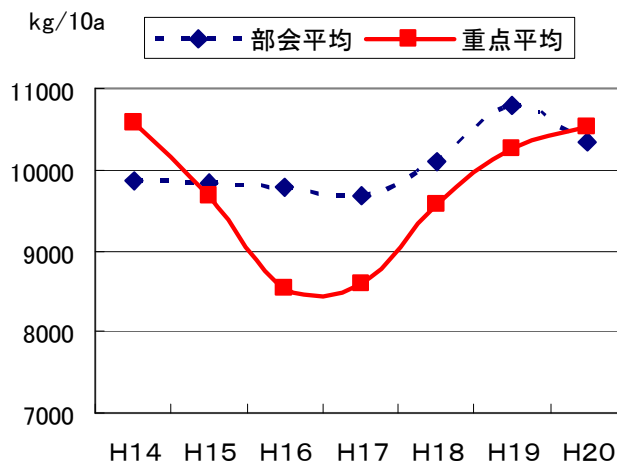
農業改良普及センターは、平成17年度から、土壌病害の被害が大きかった生産者6戸（重点農家）と関係機関と連携をとりながら、環境に優しい還元消毒の導入と定着に取り組んできました。その結果、還元消毒実施面積は、平成20年度は約12haとなりました。また、重点農家6戸の平均の10a当りの収量も土壌病害による被害が発生する前の水準にV字回復するまでになりました。

現在は、より消毒効果が高く、持続効果の長い還元消毒方法の開発に取り組んでいます。

今後は、日高管内でのトマト以外の品目（軟白ねぎ、花き等）への広がりが期待されます。



農業試験場と関係機関との試験ほ場の調査



10a当り収量の推移（見事なV字回復！）

